

# ロマンチック街道の旅 2020



2020年12月

旅のチカラ研究所 植木圭二

友人と長野県西部から群馬県北部の日本ロマンチック街道の沿線を車で旅行してきた。今回の旅は“ロマン溢れるこだわりの宿”に安く泊まるという企画で、充実した旅になった。

## ■旅のきっかけ

地球一周の船旅で知り合った京都在住の吉尾さんから浅間山麓にあるロマン漂う宿に行かないかという誘いがあったのが2週間ほど前のことである。私と旅のセンスが似ている彼の誘いなので、私は即座にOKした。

ロマンと言えば、「日本ロマンチック街道」と呼ばれる広域観光道路がある。この名前はもろろんドイツのロマンチック街道からとったもので、本家ドイツではドイツ南部の観光名所を繋げて観光に便利のように案内した約400kmの街道になっている。

日本ロマンチック街道は長野県上田市から群馬県の北部を貫いて栃木県日光市まで、途中には軽井沢、草津温泉、日光などの有名観光地をはじめ城下町、温泉町、宿場町などが点在しており、それらを繋ぐルート of 全長は本家に引けを取らない約320kmもある。



<日本ロマンチック街道の概略図 協会 HP より>

今回はその日本ロマンチック街道の沿線を訪れる 4 日間の旅、それも男 2 人で行くという旅を企画した。

この時期に中年おじさんの 2 人旅なので何か面白い切り口はないかと考え、安く泊まることにもこだわってみることにした。ただし単に安いというのではなく、ロマン溢れるこだわり宿に格安で泊まるという一見相反するテーマに挑戦することにした。

幸いなことに日頃は高く泊まれない宿でも GoTo トラベルキャンペーン (以下 GOTO) によって安く泊まることができ、さらに 11 月の終わりから 12 月初めは紅葉が終わって年末年始の前なので宿は比較的空いており、格安に泊まるチャンスでもある。

#### ■ユースホステル

吉尾さんお薦めの宿は小諸にあるユースホステル (以下 YH) で、彼が昨年夏にバイクで一人旅をしていた時にお世話になった宿だという。「是非また来てください」というハガキや手紙が頻りに届いており、植木さんなら YH も喜ぶだろうと誘ってきたといういきさつだ。

私は、YH には学生時代の日本一周旅行で何度も泊まっており、社会人になってからも泊まったことがある。都合 30 泊くらいはしているだろうが、それにしても数えると何と 40 年ぶりの YH 泊になる。これはロマン溢れる宿泊になりそうだ。

そもそも YH とは 100 年以上も前のドイツで子供の教育目的のために始まった運動で、最初は夏休みの学校施設を借用していたが、評判が良かったのでその後は専用施設を作るようになった。運動は全世界に広まり日本には第二次世界大戦後に入ってきた。

教育目的なので普通の宿にはないルールがあり、例えば夕食後に宿泊者が一堂に会して語り合うミーティング、自分で食器を洗い、男女別の相部屋で、喫煙と飲酒の禁止といったものだ。ただし現在では時代の変化によりルールはだいぶ変更されている。

私が日本一周旅行をした 40 年以上前は、安心、安全、そして安い宿なので多くの若い旅行者が泊まり、情報収集にも適していた。特にたくさん女子大生が泊まるので、彼女たちと知り合うにも好都合の宿だった。

#### ■小諸 YH

私の運転する車は、吉尾さんを乗せて浅間山が大きく見える小諸市にやって来た。浅間山の麓の牧草地を登って行くと「小諸ユースホステル」と書かれた看板が目に入ってきた。

この YH は 3 つの棟からなる大きな施設で、決して豪華な造りではないが何となく風格がある。全盛期には多くの若者がここに泊まって旅の一夜を過ごしていたのだろうと容易に推測できる。それゆえに若者たちの熱き思いやエネルギーが未だに感じられる気がする。

YH に入ると、新型コロナウイルス感染症 (以下コロナ) の影響もあつてか私たち以外に宿泊客はいない。

案内された部屋は作り付けのベッドが 4 つあり、かつては 2 段ベッドだったらしく上段のベッドと梯子を取り除いた跡が残っている。昔はここに 8 人の宿泊客が泊まっていたようで、各自が荷物を入れる棚が 8 つある。

かつてのユースホステルの食事は、私の記憶ではワンプレート料理でかなり簡素なものだった。私が学生時代に行った日本一周旅行は貧乏旅行だったので空腹をしのぐためご飯をたくさんお代わりして、おかずは節約して食べることに終始していた。従って食に対して私の好き嫌いは完全に無くなった。それはユースホステルの粗食（失礼！）のお陰だったから、ありがたいものだ。やはり YH は青少年育成目的の宿だった。

さて今夜の夕食の内容は肉を中心にした料理で結構ボリュームがある。餃子や煮物などもあり、ワンプレートではなく皿の数も多い。豪華とまではいかないものの、必要にして十分な内容で栄養のバランスも良さそうだ。もちろん味も良い。

アルコールは禁止ではなく普通に飲めるが、ビールを頼んだら玄関にある自動販売機で買って下さいとのことだ。



<小諸 YH の外見>



<小諸 YH の夕食>

泊まり客は私たちだけなので、宿泊者同士の情報交換やミーティングもない。そのお陰でペアレントと話す機会が持てた。ご存知のようにペアレントとは英語で“親”の意味だが、YH の場合は宿の主人をそのように呼ぶ。つまり子供たちが YH に来たら宿の主人が親代わりだという意味で、玄関に入ると初めての訪問でも「お帰りなさい」と挨拶されるのが定番になっている。

この宿のペアレント夫妻は 40 年ほど前にこの YH をオープンさせ、以来ずっと夫婦で運営してきたという。夫婦ともに旅好きで、旅で知り合ったらしい。

ペアレント夫妻と私たちは旅の話で盛り上がった。それも 40 年分だから話は尽きない。

私たちが地球一周の船旅で知り合ったことを話すと、大変うらやましく思われたようだが、3 カ月間も YH を空けられないので地球一周の旅は無理だと言っていた。せめて気分だけでも味わってもらいたく、私の名刺を渡した。

部屋に戻り吉尾さんと盃を傾げる。かつての 8 人部屋の広い空間にはストーブが 1 台だけあってテレビもラジオもカレンダーも絵画もない。全くもって殺風景な部屋だが、その方がかえって新鮮味を感じられるから不思議なものだ。

この部屋に 40 年もの長い間に泊まった多くの若い旅人たちの熱い思いを感じながら、夜遅くまで旅談議を交わした。

出発前に会計をお願いしたら、信じられない金額を言われた。2人で7010円、一人当たり3505円だという。ペアレント本人でさえも驚いているのだから、本当に安い。

もともと1泊2食付き6930円の宿泊費が、GOTOの35%割引と長野県独自割引1000円が適用された結果だ。手厚い補助金には感謝だが、これでいいのだろうかという一抹の不安もよぎる。

他にGOTOの地域クーポン1000円、小諸市の期間限定特別キャンペーンで市内の店舗で1000円相当の特産品と交換できる券ももらった。一人当たり実質1500円の宿泊費になった。格安でロマン漂う宿に泊まることができた。

#### ■菱野温泉常盤館

話は昨日の夕方に戻る。

YHの近くに菱野温泉という温泉がある。吉尾さんが前回来た時に入り損ねた温泉だということで、心残りなのでリベンジしたいと言っていた。ペアレントに聞くとその宿の風呂がお勧めだということで、YHの夕食の前に菱野温泉「常盤館」を立ち寄り入浴で訪れた。

それにしても入浴料金が1500円もするから驚きだ。格安にこだわっていたのでためらいもあったが、空気が冷え込んできており体は温泉を欲していた。

受付でお金を支払うと受付嬢は「あの登山電車に乗って下さい」と言って彼女の右手は山の方にある出入口を指していたので、私は我が耳を疑い聞き返した。「登山電車ですって?」、受付嬢は笑顔で「ハイ!」と答えた。

これは聞いていなかった。吉尾さんも初耳だったらしい。

彼女の示した方向に歩いていくと、「登山電車 乗車口」と書かれた標識がある。私たちがその前でウロウロしていると地元の人と思われる女性が「お風呂はこちらですよ」と登山電車の操作をして一緒に乗ってくれた。小奇麗な小料理屋のママ風の女性だったので、お礼半分、興味半分で話を聞くと、彼女は地元に住んでいてこの温泉とそこからの景色が好きなので頻繁に訪れていると言っていた。

ゆっくりと運行する登山電車は1~2分で山の上にある温泉駅に着いた。温泉駅から少し歩くと、太く立派な古木でできた雰囲気抜群の温泉施設がある。番台のような受付があって男女の浴室入口に分かれていた。

内湯は趣のある大きな石造りの湯船で、温泉が冷えた体を芯から温めてくれた。外に出ると露天風呂には大小3つの湯船があってそこからは小諸市の夕景が眼下に広がっていて、温泉も景色も抜群にいい。小料理屋のママをうらやましく思った。

この宿には次回は是非宿泊で来たいと吉尾さんと話をして登山電車で下山した。



<登山電車の線路 上に温泉棟がある>



## ■軽井沢と鬼押し出し

次の宿泊地は群馬県の草津温泉で、小諸からは日本ロマンチック街道を走り抜けていくことになる。

途中には軽井沢がある。吉尾さんは軽井沢初体験ということで、駅前で記念撮影をして少々散策をするが、季節外れとコロナの影響で人通りも少なく、嘘のように静まり返っている。私は吉尾さんに「真夏はこんなことはなく、とんでもなく混んでいます」と説明しても説得力がないことは私自身が感じてしまう。

軽井沢駅から旧三笠ホテルを目指して北上して軽井沢銀座まで来ると、今度はまばらだった人通りが嘘のように混雑している。都心のターミナル駅さながらの光景になっている。今度「これが軽井沢ですよ」と胸を張って自慢するから、人間とは不思議な生き物だ。

それにしても平日の昼間のこの混雑ぶりは、これはこれで説明がつかない。

「鬼押し出し園」にやって来る。ここは江戸時代の1783年に浅間山の大噴火で流れ出た膨大な溶岩が固まってできたもので、地上のものではなく地獄のような風景になっている。それゆえ鬼が押し出したと命名されたのだらう。

## ■草津温泉

群馬県の草津温泉に到着する。草津温泉は既にいくつもの旅行記で紹介しているので割愛するが、いつものように湯畑、共同浴場、西の河原露天風呂などの温泉をハシゴした。強酸性の熱い湯にはさすがの山男の吉尾さんにも効いたようで、休憩がてら昼食とビールを求めて食事処に入る。

立ち寄ったのは、地元民も人気があって私もよく利用する鳥料理屋「とり彦」だ。ここでは焼き鳥丼などを注文するのが一般的だが、今回はメニューが増えたようで、「鶏肉のソースカツ丼」というちょっと珍しい丼物を発見する。

確か大阪と和歌山の県境付近に「赤赤鶏のソースカツ丼」なるものがあつたが、群馬県で鶏肉のソースカツ丼には初めて出会う。



<とり彦の鶏肉ソースカツ丼>

群馬と言えば桐生のソースカツ丼が有名で、もちろんトンカツでチキンカツではない。自称ソースカツ丼評論家を名乗っている私にしては、これを注文しない訳にはいかない。

出てきたのは丼ではなく重箱で、ご飯に鳥モモ肉を揚げたチキンカツを少し甘めのソースにくぐらせたもので、鳥料理専門店なので肉はとても柔らかい。味も予想どおりだった。

## ■ホテル櫻井

草津温泉で最も高級な宿、大きな宿として有名な「ホテル櫻井」に宿をとった。私は草津温泉には相当回数来ており長期滞在もしているが、いつも比較的安い宿に泊まっている。その理由はどの宿に泊まっても草津温泉の源泉は変わらないという一応筋が通ったような理屈をつけていた。

しかし今回は何とかホテル櫻井に安く泊まれないかと思案し、その結果“訳あり部屋”を選び、さらに GOTO の割引を利用すると 2 食付き約 9 千円で泊まれることが分かった。ホテル櫻井がこんな値段で泊まれるとは信じられない。今回は同行していないが出発前に妻に言っても信じてもらえなかった。

私たちが宿に着いたのはまだ午前中で、泊まり客がチェックアウトして館内が比較的空いている時だ。「早く着いてしまったけれど、駐車場に車を置いていてもいいですか？」とフロントで聞くと「もちろん結構です。部屋はまだ掃除中で入れませんがチェックインの手続きはできますが、いかがしますか？」と逆に聞かれた。早速チェックイン手続きを済ませて、ついでに「共同浴場に行きたいので部屋のタオルを先にもらえませんか？」とお願いすると、棚からタオルと歯ブラシのセットを取り出し「どうぞお使いください」と手渡してくれた。

数時間後に部屋に入るとタオルと歯ブラシのセットは別にあった。

その他にも細かい気遣いがたくさん目につく。ツインルームの部屋には大と中のサイズの浴衣が 4 着用意されている。さらに浴衣の懐付近の内側にはポケットが付いている。一つの部屋を 2 人で使うので部屋の鍵は 2 つ用意されている。

さて“訳あり部屋”の理由が窓の障子を開けて分かった。目の前にホテルの塀があつて眺望が悪いことだ。塀は綺麗な白壁で決して不快なものではない。それに障子を閉めておけば全く関係ない。この程度であんなに安くなるのかと、吉尾さんと顔を見合わせてしまう。



< 訳あり部屋の窓からの眺め >

ホテル内を散策するとお客は若者が多い。平日の温泉地の宿といえば中高年が多いのが相場だが、それがむしろ逆転している。その若者たちを観察すると 20 代か 30 代の女性のグループ、カップルが多く、ファミリーもいる。

この現象は一体どうしたことなのだろう。それは恐らく GOTO のせいだろう。せっかく行くのだから割引額が多く普段泊まれないような高級宿が人気になっているとニュースで言っていたのを思い出した。この若い年代層は情報に敏感で即座に行動に移す実行力がある。

一般的に観光地にある巨大ホテルは、収益を上げるためにホテル内に飲食店や売店、アメニティなど全てを用意する。そのために宿泊客はホテルから出なくなる。そうすると温泉街に人が行かなくなり、温泉地全体に活気がなくなる。その結果、温泉地そして巨大ホテルにもお客が来なくなる。これが最近見かけるさびれた温泉地の姿である。

ということを私は旅行記「草津温泉 2018 春夏秋冬」で書いていた。

しかし草津温泉は湯畑を中心に温泉街がとても活気があるのでそうならなかった。ではその草津温泉の巨大ホテルの中はどうなっているのだろうか。

ホテル櫻井も館内設備が充実し、每晚「湯もみショー」が開催されている。夕食を終えてちょうど良い時間帯なので私たちも見物した。確かに便利で車椅子の人や高齢者にはありがたい。ただ若者たちをあまり見かけない。それは恐らく湯畑周辺に繰り出しているのだろう。

そんな若者たちのために夕食なしの宿泊プランがあって、それを選んでおり湯畑周辺のお洒落なレストランや居酒屋で自由に夜を楽しんでいる。

客層ごとに対応を変えているという戦略をとっているから素晴らしい。



<ホテル櫻井の中で開かれている湯もみショー>

宿の設備や食事については、細かく紹介しなくてその質や内容は理解してもらえそうだが、温泉については触れておく必要があるだろう。

草津温泉には草津町役場が管理している源泉が 6 つある。それは白旗、西の河原、湯畑、地藏、煮川、そして万代鉦（ばんだいこう）だが、古い宿ではこの 6 源泉以外に独自の源泉を持っているところがある。ホテル櫻井は西の河原と万代鉦の 2 源泉を引いているが、独自の「わたの湯源泉」がある。

ホテル櫻井の露天風呂でその源泉が味わえる。この感想は言わずとも分かってもらえるだろうが、とにかく素晴らしい。他の源泉に比べてまろやかな感じがする。このわたの湯源泉に浸かっただけでも私にとってはこの宿に泊まった価値があった。

まさしく温泉という地球のロマンが溢れる素晴らしい宿だった。

## ■中之条町

日本ロマンチック街道を走って草津町に隣接する中之条町に入った。

ここにある品木ダムは是非とも吉尾さんに見てもらいたかった。それはこのダム湖で凄いことをやっているからだ。草津温泉は強い酸性の湯で、草津だけでなくこの付近一帯の川はみな強い酸性になっているので堰き止められたダム湖の色は乳白色がかった緑色になっている。

強酸性は温泉としては効能があって良いが、農業用や工業用には利用できず、魚も住めない。そのために酸性の水を中和するためにアルカリ性の石灰を投入している。その中和したダム湖の底の沈殿物を重機ですくって排出している。これには吉尾さんも感激していた。

道の駅六合（くに）にやって来る。この地域はその昔 6 つの集落が合併して六合村を名乗っていたが、今は中之条町六合地区になっている。道の駅に隣接して応徳温泉「お宿 花まめ」がある。この宿は私好みの宿で、古民家をリノベーションした施設だ。

最近よく聞くこの“リノベーション”という言葉は、再開発の意味だが同様な言葉のリフォームとは違う。リノベーションは既存のシステムを創造的に破壊することによって新しいシステムを構築することで、新しい価値を創造するものだ。それに対してリフォームはバリアフリー化など、基本的な使い方を変えずに部分的に改良することを言う。

この宿は木のぬくもりが暖かい田舎風の造りでありながら最新設備を入れて新しい価値を創造している。それはある意味、田舎と都会の融合かもしれない。

四万温泉の宿「積善館」にやって来る。宿の前には赤い橋があつて映画「千と千尋の神隠し」の中で出てきたあの「油屋」のような建物が建っている。私は大正ロマンを感じさせるこの建物や風呂が好きで宿泊も含めて過去何回も訪れている。残念ながら今はコロナのために立ち寄り湯はやっていない。

温泉街の蕎麦屋で昼食、上州名物の「焼きまんじゅう」を食して四万温泉を後にした。

## ■ロックハート城

群馬県高山村には「ロックハート城」という本物の西洋の城がある。

この城は 1829 年にイギリスで建設された地上 3 階、地下 1 階の本格的な城だ。その城を 1987 年に俳優の津川雅彦が北海道広尾町に計画していたレジャーランドの中核施設とすべく、私費で購入した。重量約 600 トン、個数にして約 4000 個の石となったロックハート城を 30 個のコンテナに詰め込み日本へ輸送したが、広尾町と折り合いがつかずに計画は宙に浮いてしまった。

1993 年に沼田市にある石材業の会社がそれらを買って石のテーマパークとしてここに移設し復元した。中世ヨーロッパの街並みも再現されていることから、ドラマのロケ地、結婚式場、ライブ会場などとしても利用されている。

それにしても津川雅彦は、何故この城を買ったのだろうか。

それは最愛の娘へのプレゼントだと生前に語っていたことをこの城を見て思い出した。

そして彼が長年かけて収集した 1100 体のサンタクローズも城内の「世界のサンタミュージアム」で公開されている。



## ■片品村へ

ロックハート城を過ぎるとすぐに沼田市に入る。かつて沼田は越後（新潟県）に行く三国街道の交通の要衝で、信州の真田家が治めていた城下町だ。それゆえ数年前の大河ドラマ「真田丸」には頻繁に登場していた。

沼田市を通り抜けて片品村の村役場、そして隣接した道の駅は新しい立派な建物になっている。

道の駅のレストランでは「村民キッチン」という催しが開かれている。地元の主婦たちが腕を振るって日替わりや週替わりで村民や観光客に料理を提供するもので、もちろん有料だが、実に面白そうな取り組みだ。主婦は一時的だが、ある意味プロの料理人になるので気合いが入る。食べる側はその気合いの入った料理や、普段と違う家庭の味を楽しめる。そこには気づきや新たなコミュニケーションも生まれる。

この村民キッチンを知っていたらここで昼食を食べたのに、残念ながら別の機会に来よう。

## ■梅田屋旅館

新しい立派な道の駅の隣には本日私たちが泊まる「梅田屋旅館」がある。「日本秘湯を守る会」の宿なのに周辺を見る限りは秘湯という感じは全くしない。ただ昔は宿場の温泉宿として栄えたようで、建物は昔からの趣が色濃く残っている。

宿にチェックインしてからは、私たちは温泉三昧を楽しむことになる。

私が男湯に行くと、おばさんが男湯から出てきた。男のおばさんはいないから、出てきたのは確かに女だ。それなのに男湯から出てきたから、私はあわてて入口の暖簾を確認するために風呂の外に出たが、やはり男湯に間違いない。すると、おばさんは「あら、間違えてしまったみたい」とあっけらかんとしている。その言い方や所作が実に自然で屈託がない。逆にのどかで楽しくなってしまった。それにしても入浴中の湯船で会わずに良かった。

風呂は泉質もなかなか良い温泉で、大浴場は檜造りと石造りの2種類あって男女入れ替え制で両方入浴できる。露天風呂は決して大きくはないが風情豊かな岩風呂が複数ある。

吉尾さんはこの宿の全ての風呂が大そう気に入ったようで、これらの風呂をハシゴしてばかりいる。



< 檜造りの湯 >



< 石造りの湯 >

この宿の宿泊費は本来それなりに高いが、ここも“訳あり部屋”なのでかなり安く泊まることができた。その訳とは、部屋が古くトイレが和式ということだけだ。

トイレは私たちの部屋の近くの大浴場に洋式のウォッシュレット付きのものがあるので全く問題ない。古い部屋はむしろ趣があり、それなりに面白い部屋で小さな中庭に面して掃き出しになっている。掃き出しの部屋は、旅館ではあまり味わったことがない。

この宿もまたロマン溢れる宿だ。



<訳あり部屋の庭に面した掃き出し>

#### ■温泉評価委員会

私は温泉宿を評価する温泉評価委員会、通称「おひよい」を立ち上げている。それは温泉宿に泊まった時に組織される勝手気ままな委員会で、委員は同行した人になる。何が良かったとか悪かったとか、あれこれ話し合って各項目を5段階で評価し、委員会として評価値を算出する。

評価の基準は、5は驚き感動、4は普通に良い、3は可もなく不可もない、2は普通に悪い、そして1は失望落胆としている。

総合点（平均値）で5段階の75%、つまり3.75をオススメの目安としている。特に4.00を超えるには驚き感動が少なくとも1項目以上あるからオススメ度は高い。

「小諸 YH」には入浴もしておらず、そもそも宿の目的が異なるので評価項目も適していないことは百も承知だが、一般の旅館と同じ目線であえて評価すると、料理3、コスパ4、サービス4、建物・部屋4、立地環境3.5になった。総合評価は算出しなかった。

菱野温泉「常盤館」は、泉質3、風呂5、建物・部屋4、立地環境4になった。泊まっていないので料理やコスパは未評価、総合評価も算出しなかった。

草津温泉「ホテル櫻井」は、泉質 5、風呂 5、料理 4、コスパ 4、サービス 3.5、建物・部屋 4、立地環境 4、総合点 4.21 になった。

わたの湯源泉の泉質は酸性-アルミニウム-硫酸塩-塩化物泉（低張性強酸高温泉）、pH は 2.1、湧出温度は 50.2℃となっている。

片品鎌田宿温泉「梅田屋旅館」は、泉質 4、風呂 4.5、料理 3.5、コスパ 4、サービス 3、建物・部屋 4、立地環境 2.5、総合点 3.64 になった。

泉質は低張性アルカリ性単純泉、pH は 9.11、湧出温度は 41.9℃となっている

#### ■旅の記録

実施は 2020 年 11 月 24 日（火）～27 日（金）の 4 日間、その行程を以下に示す。

- ・ 1 日目 昼に自宅を出発し最寄り駅で吉尾さんをピックアップ、軽井沢を經由して 16 時小諸 YH 到着しチェックイン、菱野温泉常盤館に日帰り入浴
- ・ 2 日目 9 時 30 分 YH 出発、小諸駅前商店街、鬼押し出しに立ち寄り草津温泉到着 15 時ホテル櫻井にチェックイン、温泉街散策と入浴
- ・ 3 日目 10 時ホテルを出発、品木ダム、六合の道の駅、四万温泉で昼食、 16 時片品村梅田屋旅到着チェックイン
- ・ 4 日目 9 時 30 分宿出発、昼に自宅到着

総費用は 1 人当たり約 3 万になった。これは GOTO の割引や地域クーポンを使用した結果の費用になっている。

- ・ 宿泊費 20531 円 以下 3 つの宿の内訳
  - 小諸 YH 3505 円（6930 円に GOTO の 35%割引と長野割引 1000 円適用済）
  - ホテル櫻井 9041 円（GOTO の 35%割引適用済）
  - 梅田屋旅館 7985 円（GOTO の 35%割引適用済）
- ※この 3 軒で GOTO の地域クーポンを一人当たり 4000 円入手
- ・ 交通費 高速及び有料道路とガソリン代 6780 円（1 人当たり）
- ・ 入浴代 菱野温泉常盤館 1500 円、草津温泉西の河原露天風呂 600 円
- ・ その他（昼食 3 回、酒代、土産物など）約 5000 円
- ※交通費入浴代その他で GOTO 地域クーポン 4000 円を充当